

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 8 授業例②

S.J. 先生

指導計画表

(全6時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■India, Raj について ・様々な言語のこと ・5 ルピー紙幣から ■Oral interaction
2	■English Express (資料1, 2) ・(オリジナルプリント) ・Review 答えあわせ ・受動態復習 (POINT 確認) ■Drill
3	■Get Part1.2 ・自作プリントを使って
4	■Get 1.2 様々な音読 ■ラージと久美の恋の行方スキット づくり
5	■USE READ ・自作プリントを使って ・WMP 計測 ・Oral interaction ・単語導入
6	■本文理解 ・自作プリントを使って

実践例

1. 「教科書で」何度も出会う

NEW CROWN は他の教科書と比べても、国際文化理解、歴史理解、平和学習、人権学習など、英語を通して世界や私たちの住む社会にある様々なことを学ぶことができる。取り扱うテーマは、中学校卒業までに知っておいてほしいテーマが多くちりばめられている。

教科書の取り扱い、現在でも担当教師によって考え方の違いがあることは否めない。私個人としては、教科書の各レッスン導入前の予習はほとんど必要ないと考えている。それよりもむしろ、今までに学習したことをもう一度振り返ることが必要だと思う。私が各レッスンの前に宿題として生徒に渡すのは、自作プリントである（資料1）。この自作プリントには、USE の各パートの本文の単語や文法表現に関連して、それまでに既習の語彙や文型の復習をできるようにしている。もちろん新出の単語や文型については授業中で導入をするので扱わない。生徒はこの Review を宿題としてやってくる。これらの問題は既習事項であるということは、生徒にも事前に確認をしているので、もしその問題がわからなくても、それまでに使った教科書や副教材、辞書などを使ったりして調べる。「できない問題は、忘れてしまっている、もしくは理解が不十分である」と生徒自身が自分の現在の到達度がわかるようにしている。

それらのプリントは、授業で答え合わせをする。こうした復習をすることで、新しい LESSON に入る段階で全員が同じスタートラインに立つことができる。（この取り組みは東京都港区赤坂中学校の北原延晃先生の実践「English Express」を参考にした。）残念ながら現在も、文法や重要表現を理解、定着させるためだけに授業がされることがあるのは事実である。そのような授業の弊害は、「何度もその表現にふれる機会が少ない」ということである。教科書では、各ページを開けば新出単語や新出文型がすぐにわかる。しかし、生徒によってはそのページの学習内容を十分理解できていない場合もある。

また「人間は忘れる動物」である。1回だけ、一時期だけふれた文型はすぐ忘れてしまう方が普通かもしれない。

そういった点から、「何度もいろんな形で出会わせる」ようにしている。単語や文型はもちろん、よく使う表現やコロケーション、また各レッスンのテーマや、登場人物の3年間の成長ぶりなど、ストーリーに関わっても「何度も出会わせる」ように心がけている。生徒たちに Book 1 から Book 3 の挿絵に描かれた登場人物の変化に気づかせるだけでも、仲間と色々話しながらかしんで見ている。生徒は、何度も出会ったり、改めてじっくり見てみるのが大好きなようだ。

2. 各 Lesson の流れ、とらえ方

① Pre-reading

各 LESSON の流れとしては、毎 LESSON 「とびら」の写真を使ったり、その他の画像をパワーポイントで提示しながら Oral Interaction を行う。ただこの LESSON 8 では、ラージの故郷インドについて取り扱っており、すでに Book 1 LESSON 5 でインドの食文化や教育、多言語の国であることなどは導入していたので、この課ではとびらの写真を使いながら1年生で紹介したことをもう一度復習した。このように各 LESSON に入る前に、扱うトピックについての興味づけを行う。特にこのレッスンでは、「Bollywood Movie」の一部を見せた。P.94 の俳優たちは、インドでとても人気のある2人であることも紹介した。ヒンディー語や Bollywood Movie などについては、ALT にも情報収集を依頼し、Oral Introduction も行ってもらった。

☆ Oral Interaction の例

JTE: Look at this picture.
Which country is this?

Ss: インド。India.

JTE: Yes. It's India.

What do you see in this picture?

Ss: "Vegetarian"

JTE: Oh, Emily is a vegetarian, did you know?

ALT: Yes, I am a vegetarian, I don't eat meat.

Some people don't eat pork because of their religion.

JTE: You can see other languages on these signs.

Some of them are Hindi, others are Marathi.

JTE: Look at another picture. (5 ルピー紙幣の写真をみせる。) What is this?

Ss: 5 rupees. 「ルピーってインドのお金の単位だよね。」

JTE: Yes, that's right. This is a 5 rupee note. Look at the left side.

Emily, are these all different languages?

ALT: Yes, I think so.

They use all these languages in India.

各 LESSON の導入時に扱うテーマについて紹介することによって、次に扱う GET をスムーズに進めることもできるし、生徒にとっても「読んでみよう」という動機付けにもなる。この Oral Interaction で意識していることは、生徒とのやりとりの中でそのレッスンで使われる表現をできるだけ使うようにすることである。この Oral Interaction は、映画館で初めに観る他の映画の予告に似ている。これを観ておくのと観ておかないのでは、本編を見たときの理解度がちがう。また、slow learners にとっては、「さあこれを読みましよう。」と新出単語のたくさん入った文を読むことは大きな負担である。それを事前に画像や映像、教師や仲間とのやりとりの中で内容のある程度知っておくと、その後の活動が比較的スムーズにできる。

②GET について

LESSON 8 に限らず、どの課でも GET については、「短い文章を、単語や文の構造に気をつけて丁寧に読み、理解する」、「出てくる表現を参考にしながら、自己表現につなげる」ためのページととらえている。

先にも述べたように、前時に宿題として、既習事項の復習のためのプリントを配布する。(資料1) 授業ではそれを答え合わせすることから始まる。授業スタイルは基本的にはペアなので(班の場合もあり)、「ペアで答え合わせ→全体で確認」という形で行う。その後、JTE の Oral Introduction,

vocabulary のチェック。Vocabulary については、日本語と音声をチェックするだけでなく、品詞はもちろん、派生語や反対語、コロケーションまで扱う。POINT の新出文型については、事前に副教材として導入済であるので、それぞれの USE のページでもう一度確認する。その他はポイントとなる最小限の和訳の穴埋め、音読、Q & A などの補充問題を行う。

③USE READ のとらえかた

各課の USE READ は 2 年生になると、150~200 語程度の文を読む。入試でもこの程度、またはこれ以上の語数の長文を読むことは必須であり、「まとまった文章を読むことに慣れる」ことはできるだけ早い時期から始めたい。そのため私はこの USE READ を学習指導要領の「読むこと」の解説にあわせて、

「(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取る」のはもちろん、「(エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること」を中心に読み進めていく。その中で、「4 技能を統合的に育成していくためには『読むこと』の活動であっても、『読むこと』を通して得た知識などについて、自らの体験や考えなどに照らして『話すこと』や『書くこと』と結びつけることが大切である」とあるように、お互いの感想を述べたり、賛否とその理由を表現したりする活動を意識して読みすすめる工夫もしている。

3. Lesson8 の授業の流れ

①GET Part 2

Part2 ではラージが久美に 2 枚の Bollywood Movie のチケットを渡している。このシーンは見方を変えてみると、「カップルの会話」または「久美に好意を抱いているラージが、彼女を映画に誘うシーン」ともとれる。実際、Book 2 の We're Talking 6 では、久美が翌日の連絡を、わざわざラージの自宅まで電話をかけて伝えている。Book 1 にさかのぼると We're Talking 8 でクラスの仲間との公園へのお出かけの計画を二人で立てたり、We're Talking 9 ではお昼ご飯をどこで食べるか二人で相談し合っている。教科書を読み進めるとき、せつかく 3 年間

通した登場人物なので、彼らの成長もいっしょに読んでいきたい。挿絵だけを見ても彼らはだんだん大人に近づいていっているし、それぞれのキャラクターの特徴も3年間まとめてみると、それぞれがユニークである。生徒たちも、登場人物の成長、とくに恋愛に関わる話を空想でもいいので入れていくと、より興味関心をもって教科書を「読み取る」とする。一つの小説の主人公になりきって、その世界に入り込む。知りたいことがどこに載っているか、集中して文から探す。本来「読む」ということではないだろうか。教科書はただ「英語を学習するためのもの」ではなく、「興味を持って読み進められるもの」にできるだけしていきたい。

本題に戻すが、Part 2 では即興で、このスキットの前後を考えた。(学級全体で)

JTE: 「ラージが久美を映画に誘いたいみたいだよ。Part 2 のスキットも使いながら、誘い出すまでのスキットをみんなで作ってみよう。」

「英語で言えなかったら、最初は日本語でいいよ。みんなで作ってみよう。」

…このようにして、学級全体でスキットをつくった。以下はそのスキット。

Raj: Are you free next Sunday?
Kumi: Yes, why?
Raj: I have two tickets for a Bollywood movie. Are you interested in Bollywood movies?
Kumi: What is 'Bollywood' movies?
I know Hollywood movies.
Are they the same?
Raj: No, these are Indian movies. Will you go see a Bollywood movie with me?
Kumi: Sure.

このあとに、Part 2 のスキットが入る。そして、

Raj: Then, let's meet at 9 at Midori station.
Kumi: Okay, thank you, Raj!
Raj: See you next Sunday at 9.

このように日本語と英語で二人のやりとりを想像する。「お互いにほのかな恋心を抱きつつの初デートだろうか…。」生徒たちはそんな事を考えなが

ら、うれしそうに恋のスキットを作り上げる。まさに「登場人物に息を吹き込む」作業である。

なお、今回は時間の都合上、学級全体で行ったが、時間的な余裕があれば、ぜひペアでスキットづくりをし、それを演じさせるまでできるとよい。

②USE READ

この課では、ラージはインドでは3つの言語を日常のそれぞれの場面で使い分けている。日本に住む私たちのほとんどには、3つの言語をそれぞれのシーンで使うことはまずあり得ない。そういう点で、この課では私たちがあまり知らないインドでの使用言語とその歴史について学ぶことができる。特にインドで英語が公用語となる歴史については、社会科でも学習しており、「すでに知っている知識」と「あたらしい情報」が共にある生徒にとって読みやすい文である。

指導の流れとしては、まず初見の状態で本文を読む。読む前には事前に配布した自作プリント(資料2)のPre-readingの問題に目を通してから読み始める。学級全体に見えるようにタイマーを掲示し、読みにかかった時間を計測する。その後問題に日本語で答え、全体で交流する。問題については、新出単語の意味がわからなくてもできる限り支障のない問題にしている。「わからない単語の意味を推測しながら読む」ためだ。解答が終わった後、学級全体で答え合わせ。そのWPMを計る。このWPMとは words per minute (1分につき何語読めるか)の頭文字。

$$\begin{aligned} & \text{☆語数} \div (\text{本文を読むのに} \text{かかった秒}) \times 60 \\ & \quad \times (\text{問題の正解数}) \div \text{問題数} \end{aligned}$$

これでWPMを算出することができる。このように自分の「読む力」を数値化することも、読むことへの動機付けにつながっていく。

その後、vocabularyをGETと同じように全体で確認する。わからない単語の意味を確認できた段階で、再び読みさらに内容を理解していく。個人で読み進めていき、自作プリントに解答をする。最後に全体で答え合わせをするという流れである。USE Readの到達目標は、「物語の要約が、日本語または英語でできること」となる。

③Mini-project について

この課においては、それぞれのレッスンで学んだことを生かして、4技能を統合的に活用した授業ができるページである。今回は2のSpeakについて言及したい。

ここではインドと日本についてであるが、他の2ヶ国の情報をあらかじめ用意する。それらをそれぞれカードにし、カードA、カードBにする。ペアになり、それぞれがA、Bのカードを持つ。そのカードを見ながら、p.98にある表現を使ってパートナーに、自分の持つカードの国を当ててもらうようにヒントを出していく。いわゆる「連想ゲーム」に近い形である。

A: Where is the country?
 B: It is in Asia.
 A: What currency is used in this country?
 B: Won is used in this country.
 A: What language is spoken there?
 B: Korean is spoken in this country.
 A: What is famous for his country?
 B: Kimchi is famous for this country.
 A: Oh, is it Korea?
 B: Yes, it is. It's Korea.

そのほかこのカードを使い、ペアでお互いの持っているカードに書かれた情報を聞き合い、p.98のような表を完成させる活動もできる。情報の共有の仕方にも2つの方法があり、自分の持っている国の情報をp.98の下の表現をもとにdescribeする方法。そしてパートナーが相手の情報を聞き出すために質問をしていき、それに答える方法がある。

カードB

国	(South) Korea
地域	The Korean Peninsula (Asia)
言語	Korean
通貨	Won
特有の事物	Hanbok (<i>Chimachogori</i> : cloths) Kimchi (food)

【参考文献】

北原延晃「英語授業の『幹』を作る本 上下巻」
 ベネッセコーポレーション (2010)
 太田洋「英語の授業が変わる50のポイント」
 光村図書 (2012)

カードA

国	The UK (England)
地域	The British Isles (Europe)
言語	English
通貨	Euros
特有の事物	Big Ben (Clock Tower) Fish and Chips (food)